

Vol.18

2023.3

# ND

キャンパス通信

わたしらしく、誇らしく

*Be Notre Dame, Be Myself*



京都ノートルダム女子大学  
KYOTO NOTRE DAME UNIVERSITY



# ND VOICE

## コロナ禍での学生生活を経験してきた私たちだからこそ、 学生同士の繋がりを広げたかった

左京区✳はなまちチーム H.H.さん・R.S.さん・Y.S.さん・Y.F.さん

ND VOICEでは、毎号注目のND生をご紹介します。多彩な活動をするND生の中から、「左京区まちづくり活動支援交付金」に採択された、学生交流イベントを企画した4人にお話を聞きました。

### “みんなが色々な考えを共有することで 新しい自分を見つけることができた”

私たち、左京区✳はなまちチームは「ゆるっとみらいトーク」と題して、大学を超えて学生同士が気軽に交流できるワークショップを企画しました。これは、就活・進路で悩む学生同士が、さまざまなテーマで意見を交換することで自身のキャリア形成について考えるイベントです。少し先のみらいの話を学生同士で話すことで新しい価値観に出会うきっかけになればいいなと思って企画したこのイベントは、「左京区まちづくり活動支援交付金」に採択されました。

コロナ禍で活動制限を余儀なくされた学生生活も徐々に緩和されてはいますが、完全に以前の状況に戻ることはなく、気付くともう就活生。そうした状況下だからこそ、他大学の学生も含めて、学生同士気軽に交流できる場を立ち上げようと考えました。

もともと「地域活性化」「他大学生との交流」「企画」という3つに興味を持っていたことと、コロナ禍で人との交流が



イベント当日の様子

途絶えてしまったことも重なり、自分達の方で人との交流を生み出したいと考え、この取組みをスタートしました。

### 大変なこともあったけど、工夫も楽しい 初めてイベントをゼロから創り上げた経験

開催日は2023年1月14日(土)に決定。企画準備を進めていく中で楽しいと感じたところは、話し合いを重ねるごとに、このイベントがどんどん良いものになっていると実感できたことです。実施にあたっては、左京区の職員の方をは



H.H.さん

英語英文学科  
3年次生

R.S.さん

英語英文学科  
3年次生

Y.S.さん

英語英文学科  
3年次生

Y.F.さん

英語英文学科  
3年次生

左京区✳はなまちチームの皆さん

Webサイトでも  
「ND VOICE」配信中



2023年  
1.14  
開催

### Event Report

#### 「ゆるっとみらいトーク」イベント開催報告

当日は約30名もの学生が来てくださいました。参加者の9割以上が初対面だったため、アイスブレイクを交えた自己紹介からのスタート。ミニゲームを通して各グループで自身の過去を振り返り、さらに自分の将来についてゆるっと楽しく意見交換を行いました。イベントの最後には、グループで一緒になった仲間へメッセージカードを書く時間を設け、感謝の気持ちやお互いの今後に向けてのエールなど、思い思いの言葉を送り合いました。参加して下さった皆さんが笑顔だったのが印象に残っています。時には真剣な表情で意見交換をされていて、ゆるっとみらいトークを開催した意義とやりがいを感じました。また、「最初は緊張したが、最後には打ち解けて話すことができた」「2回目もあればぜひ参加したい」といった皆さんからの温かい言葉が嬉しく、感動で胸一杯です。



イベントは大成功を収めました

じめ、大学の教職員の方など、たくさんの方が興味を持ってくださり、支援してくれました。そのことがとても嬉しく、もっと良いものにできるようがんばりました。一方で、困難だったことは集客です。SNSでの発信をはじめ、告知方法に工夫を凝らしたり、他大学へ告知に行ったり。このイベントに興味を持ってくれる人が少しでも増えるよう努力しました。

この企画は数えきれないほどのたくさんの人に支えていただきました。イベント一つ開催するのにこんなにもたくさんの時間が必要で、多くの人が関わっているのだと初めて知りました。自分達でゼロから創り上げた経験や、左京区✳はなまちチームのメンバーとの思い出を一生大切にしたいと思います。

この企画が左京区✳はなまちチームにとって初めての取組みになりました。ゆるっとみらいトークでの経験を活かして、新しいイベント創りにもチャレンジしたいと思います。



01 巻頭特集  
**ND VOICE**  
左京区✳はなまちチーム

03 TOPIC  
2023年4月より始動!!  
社会情報課程  
ND教育センター 副センター長  
吉田 智子 教授

05 学生INTERVIEW  
国際日本文化学科 鷲見ゼミ  
福祉生活デザイン学科(現:生活環境学科)  
牛田ゼミ・安川ゼミ  
福祉生活デザイン学科(現:生活環境学科)  
竹原ゼミ  
2021年度キャリア形成ゼミ  
『With コロナの新しい嵐山観光を考えるゼミ』  
"SNS班"メンバー

07 HOTな講義PickUp!  
ANAエアラインプログラム

08 NDと社会  
「ND協働プロジェクト」  
ND祭に洋菓子店  
「京都北山マールブランシュ」  
キッチンカー出店

09 研究者インタビュー  
英語英文学科 Lyle De Souza 講師  
心理学科 中藤 信哉 講師

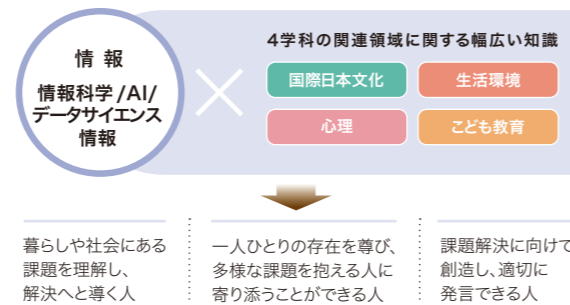
11 先生たちに聞いてみた  
12 NDの本  
13 Events Diary  
15 NEWS  
17 INFOMATION  
18 SCHEDULE

“ 2023年4月より始動!! 社会情報課程  
情報×他学科の学びで課題 解決人材を育てる ”

情報×「+α」の学びで興味のある範囲に  
活用できる情報教育を

2023年4月、ついに社会情報課程が新設されます。本学が長年培ってきた世界標準の「情報教育」と各学科の専門分野を掛け合わせた学びにより、情報スキルを実社会に合わせて柔軟に活用できるクリエイティブな女性の育成をめざします。既存の4学科のリソースを出し合って教育を展開することで、情報を軸とした学生の研究をバックアップします。さらに、全学対象の「情報活用カプログラム」の科目も増え、大学全体の情報教育をブラッシュアップすることが可能になります。

■ 社会情報課程の育成したい人物像



■ 社会・企業からも期待の声

この社会情報課程の開設にあたり、コンピュータ関係の雑誌やイベントで約20年前から本学の学生と交流のあるサイボウズ株式会社の風穴江氏から、「学生のうちに情報学の確固たる基礎を身につけることで、活躍の場がさらに広がると確信しています」というメッセージが届きました。本学の学生が従来から持つ幅広い興味分野からの斬新なアイデアや行動力に、確固たる情報学の力が追加されることに、私自身もワクワクしています。

PROFILE

ND教育センター 副センター長  
吉田 智子 教授

専門は社会情報学、教育工学。2000年より本学の専任教員。『チャットボットのルール記述を利用したAIとプログラミング教育の試み』で「PCカンファレンス優秀論文賞」受賞(2022年8月)。2023年4月より社会情報課程長。



■ 文系だからこそその情報教育で  
現代社会に生きる力を

2023年4月には社会情報課程1期生が入学します。具体的なテーマを使った「AIとデータサイエンス教育」を実施したいという考えから、北村美穂子先生を特任教授としてお迎えします。北村先生は2022年度から本学の「AIとデータサイエンス入門」の授業を担当しておられ、長年、研究してこられた機械翻訳も例に挙げて、講義や実習をされています。※ 詳細は右記「Comment」を参照

情報社会は若者が主役です。そして、数式を駆使する以上に「こういうデータがあると良い!」と考えつくことが重要です。本学では、新課程の学生と12名の教員が同等に意見を出し合い、理系に偏りがちな日本の情報教育を、本学ならではの世界標準の「情報教育」にしていきます。

今後、情報の教職課程を設置することも構想中です。これからの本学の情報教育にご期待ください。

INFOMATION

社会情報課程について

社会情報課程のことをより詳しく知りたい方は特設ページにて詳細をご覧ください。

詳しくは  
こちら



Comment

北村 美穂子氏

沖電気工業株式会社で約30年間機械翻訳システムなどの自然言語処理の研究・開発に携わり、工学博士号を取得。現在はウルフラムリサーチ製品の日本語化などAI・データサイエンス関連の開発業務に従事。2023年4月より社会情報課程特任教授。



Google翻訳などの機械翻訳の精度は近年、飛躍的に向上しています。AIの中でも特に、言葉を扱う処理の技術革新が急速に進んでいるのは、ビッグデータと呼ばれる人間が持っているさまざまな分野の大量のデータを「コンピュータが自動的に学習できる仕組み(機械学習)」が発展したからです。しかし、コンピュータがひとりでに賢くなったわけではなく、両親が赤ちゃんに言葉を教えるように、人間がコンピュータにさまざまな手段や形式で知識を与えることによって、今では、人間並みかそれ以上の自動翻訳や質問応答ができるようになったのです。

AIは賢くなった後も、人間の手による何らかのサポートが必要です。AIと共存する社会のために今まで存在していなかった仕事が今後生まれると予想されます。学生の皆さんの中にはそのような仕事に就く人もいでしょう。AIが今後ますます発達し、身の回りで活用する機会が増えていく中で、「これって、どんな風に動いているのかな」と考えられるようなきっかけ、思考のヒントを皆さんに与えられたらいいなと思います。



# 学生 INTERVIEW

本学では、さまざまな活動で学生が活躍しています。今号はゼミやグループで活動した学生の活動をピックアップ!

## 福井県の魅力を発見しよう! ND祭で福井県とコラボ出演

国際日本文化学科  
鷺見ゼミ



私たちのゼミはND祭で「福井県の魅力を発見しよう!」をテーマに、福井県京都事務所にご支援いただき、福井県にまつわる食・観光・恐竜・文学についてのポスター展示をしました。また、クイズを出題し、全問正解したら恐竜シールやお箸が当たるというイベントを催し、2日間で来場者は360名を超えました。福井県のゆるキャラ「はぴりゅう」も登場し、大人気でした。イベントでは多くの方に喜んでいただき、とてもやりがいを感じました。同じゼミの仲間と一つのゴールに向かって協力するという魅力あふれる経験ができました。



3年次生  
M.H.さん

Q この活動のきっかけは?

A 福井県と本学が就職協定を結んだことがきっかけで、行政がどのように県と県を繋ごうとしているのかに興味を持ちました。

Q この取組みのおもしろいポイントは?

A 福井県は私たちにとって“知らない地”でしたが、“知っている地”に変えていくプロセスが非常におもしろく感じられました。

住環境ゼミでは株式会社ノーリツ、京都市上下水道局と一緒に、「毎日お風呂に入りたくなる」ようなお風呂の価値を伝え、お風呂好きを増やすための活動「お風呂部」に参加しています。先日は京都市上下水道局主催イベント「いい風呂の日キャンペーン 京ふろ」に協力し、京都市動物園でバスボムづくり体験やクイズイベントをサポートしました。私たちお風呂部メンバーは、紫の「京ふろ」はっぴを着て、小さいお子さまから、年配の方までたくさんの来場者をお迎えしました。来場者の皆さんから、今夜はいつもと違うバスタイムを楽しめます!と喜んでいただけました。



3年次生  
K.W.さん

Q お風呂部の活動のきっかけは?

A 産官学連携活動として、株式会社ノーリツからお声がけいただき、本学は2019年10月から参加しました。

Q この活動のやりがい・魅力は?

A 自作のバスボムを使うことが楽しみだと感じてもらえるときにやりがいを感じます。自分の知識が増えるのもおもしろいです。

## バスボムづくりとお風呂クイズで お風呂タイムを特別に

福祉生活デザイン学科(現:生活環境学科)  
竹原ゼミ(住環境ゼミ)



## 1枚のニットから無限の可能性 コードのアイデアが止まらない

福祉生活デザイン学科(現:生活環境学科)  
牛田ゼミ・安川ゼミ(衣生活分野ゼミ)

左京区役所(左京区民ふれあい事業実行委員会)と協力し、左京区内の“左京区老人福祉センター 編物同好会”“岩倉・北女性会”の方々で作られたニットをお借りしてコーディネートを読む、ニット作品の魅力を学生の力で発信するプロジェクトに取組みました。自分たちの洋服を持ち寄り、ニットと組み合わせる実際にモデルとして着用したり、トルソーに着せて展示もしました。アイデアを出し合いながら、さまざまなコーディネートを考案し、その中からピックアップしたものをA4版の冊子にまとめています。この冊子は左京区役所の公式サイトで公開されています。ぜひご覧ください。



3年次生  
R.K.さん



Q この活動のやりがい・魅力は?

A 作り手の思いが込められた世界でたった一つのニットで、素敵なコーディネートが組めることがこの活動の魅力です。

キャリア形成ゼミで京都・嵐山の動画を制作し、SNS発信をしたことがきっかけとなり、嵯峨嵐山エリアの5つの商店街で設立された「嵯峨嵐山おもてなしビジョン推進協議会」の皆さんに向けて、Instagramの使い方講座を行いました。講座で伝えたポイントに沿って、商店街の皆さんがInstagramを投稿してくださり、閲覧者から多くのリアクションをいただきました。講座に参加した皆さんが喜んでくれたこと、SNSでのリアクションでたくさんの反応をいただけたことが一番のやりがいでした。楽しんで貪欲に行動することで誰かに伝わる時が来るのだと、この活動を通して感じることができました。



3年次生  
Y.F.さん

Q この取組みのおもしろいところは?

A 幅広い世代の方々とお話をさせていただく機会がたくさんあることです。いろいろな価値観や考え方に触れることができました。

## SNSの知識が大活躍 嵐山の魅力を広げる一役に

2021年度キャリア形成ゼミ  
『With コロナの新しい嵐山観光を考えるゼミ』  
“SNS班”メンバー

英語文学科 3年次生 Y.F.さん  
国際日本文化学科 4年次生 Y.K.さん  
国際日本文化学科 3年次生 C.K.さん





# Hotな講義

## Pick Up!



今号の講義

### ANA エアラインプログラム

開講：春学期／秋学期  
(履修年次：1-4 学年)



光末 香恵美 客員教授

英語英文学科

ANA国内・国際線のフライトの傍らインストラクターや講師として客室乗務員の専門訓練、機内サービスの企画・評価、人事部の新入社員教育・シニア社員へのキャリア研修・女性活躍研修などの幅広い業務に従事。

#### ⇒現職ANA社員に学ぶ、ホスピタリティを育てる実践プログラム。

- 英語英文学科の独自プログラムとして2008年の開始以来、主な科目を「現職」のANA客室乗務員(教育訓練関連部署インストラクター経験を有する管理職)が継続して担当しています
- 航空業界への就職をめざす人のみへのプログラムではなく、広く社会で活躍するための基本的な知識や「ホスピタリティ」という概念を土台としたコミュニケーションを実践的に学びます
- エアラインについて学ぶ講義では、実際に現場で働くスタッフをゲストとして招へいし、学びを深めます
- 職業や就業への理解を深め、学生間で「話す」「聴く」「発表する」などの実習を繰り返して卒業後の人生に向けて「出発準備」を整えます

どんな講義?

HotなPoint!

#### ⇒「エアライン研修」では、毎年ホテルや空港での体験学習をしています。

- 2022年度は、ホテルオークラ京都にて宴会場、結婚式場、客室、調理部門のバックヤード見学、人事・接客スタッフによる講話、テーブルマナー実習を実施。大阪国際空港では、客室乗務員のブリーフィング、ANAスイートラウンジ、ゲート、オペレーションデスク等の見学を通じてエアラインの業務を学んだ他、ANAグループ社員(本学卒業生)による講話や対談を実施しました

受講者Comment



- 人前で話すことが苦手でしたが、きちんと人の目を見て、堂々と発言することができるようになりました。
- 体験学習を通して、ホスピタリティには「絶対」や「正解」がないということを学びました。「一歩先を見据えた心配りが見える姿勢」が安全に関わり、時には快適性に繋がるということを深く考えさせられました。
- 自身の就業意識を高めることを目標に参加し、「どんなお客様も幸せになるような接客をする」という私の夢に近づくことができました。
- 普段は入ることのできない企業のバックヤードまで見学でき、貴重な体験をすることができました。
- 周りの状況も把握しながら今何が求められているのか、自分の役割を把握し仲間と連携を図ること、一人ひとりが自覚を持って行動すること等、今後も必要となるスキルを養う機会になりました。
- 人生の振り返りや将来どうなりたいかをイメージすることは、自己分析に自然につながっていたため就職活動もスムーズに行うことができました。

こんな人にオススメ!

- ☑ 航空業界やホテル、観光業界を志望している人
- ☑ コミュニケーション能力に自信をつけたい人
- ☑ 社会人としてのマナーを身につけたい人
- ☑ いろいろなことに挑戦してみたい人

# NDと社会



本学が行った社会貢献・地域連携・産学連携・外部での特別講座等をご紹介します。  
今号は「ND協働プロジェクト」、株式会社ロマンライフとの産学連携の取り組みです。

### 社会貢献・地域連携

#### 「ND協働プロジェクト」 事業所の商品を常設展示・定期販売

現代人間学部生活環境学科では、福祉施設と協働した教育活動を展開しています。障害者就労支援事業所と協働で実施するパンや焼菓子、手作り作品の学内販売は開始から7年が経ち、学生が主体となって活動を継続しています。これまでは、各ゼミ単独で活動に取り組んできました。

今年度はさらに活動を発展させ、3つのゼミ合同で京都市北部障害者自立支援協議会に参加する14の事業所と連携。事業所の商品等を学内に常設展示し、定期販売する取り組みを開始しました。これに先立ち学生たちは、各事業所を見学し、よりよい展示・販売方法を検討しました。また、2022年10月から2023年1月までに定期販売を6回実施しました。

この活動を通して、今後は、学生、教職員の障がい者に対する理解促進に加え、新たな商品開発に障がい者の皆さんと一緒に取り組んでいきます。各事業所とも趣向を凝らした手作り商品を作成し、販売しています。2023年度からは販売日に大学を地域の皆さまに開放し、商品を購入できるようにする予定です。皆さまもぜひ商品を手にとっていただければと思います。



「ND協働プロジェクト」商品定期販売の様子

### 産学連携

#### ND祭に洋菓子店 「京都北山マールブランシュ」の キッチンカー出店

10月29日(土)に開催されたND祭に、株式会社ロマンライフが事業展開する洋菓子店「京都北山マールブランシュ」のキッチンカーが出店しました。鮮やかな赤色のキッチンカーには、定番の焼菓子とケーキが並び、多くの来場者が列を作りました。

このキッチンカー出店のきっかけは、2022年8月に同社と締結した産学連携協定です。かねてより同社とは心理学科の『社会・ビジネス心理フィールド研修』科目での連携実績があり、この度の連携協定が締結されました。3年ぶりに通常開催されるND祭を盛り上げる一助になればと、キッチンカーの存在を知った本学職員がロマンライフ社に声をかけて実現しました。

キッチンカーの隣には、マールブランシュのチューブ型の商品「モンブランクリーム」のユニークな使い方として心理学科の学生が2021年度の授業内で提案した、「極細キャップでトーストアート」動画を流し、来場者にお見せしました。NEWS記事では2022年度の取り組みを紹介しています。

» P.16もあわせてご覧ください



ND祭でキッチンカーに並ぶ来場者





Lyle De Souza 講師

英語英文学科

ロンドン大学パークベックカレッジ修了。博士(日本文化研究)。京都大学人文科学研究所外国人特別研究員を経て現職。専門は英語圏文学、ディアスポラ文学。

# 研究者インタビュー

本学は教育研究の成果を外部に向けて発信する「公開講座」を年2回開催しています。

2022年10月と11月に開催された公開講座を通して、教員の研究を紐解きます。

中藤 信哉 講師

心理学科



京都大学大学院教育学研究科博士後期課程研究指導認定退学。博士(教育学)。京都大学学生総合支援センター特定助教を経て現職。専門は臨床心理学。著書に『心理臨床と「居場所」』(創元社)。

「Japanese diaspora＝日系人」とアイデンティティ — 英語英文学科公開講座より

## 研究概要

### 複数のアイデンティティを持つディアスポラの魅力

私は、日本のディアスポラ文学について研究しています。ディアスポラとは、元の国家や民族の居住地を離れて暮らす国民や民族のコミュニティを意味します。現在は「日系グローバル文学：ディアスポラ、人種、アイデンティティ、帰属意識」というプロジェクトに取り組んでいます。この研究の目的は、人種差別のプロセスの分析を通して、マイノリティ・アイデンティティについての理解を深めることにあります。

現代のアイデンティティ、特に日系人のように複数の文化(時には相反する文化)と接触するディアスポラのアイデンティティに魅力を感じています。アイデンティティは非常に難しい分野であり、人文科学(文芸批評、文化研究)と社会科学(日本研究、社会学)を横断する私の専門知識を最大限に活用することが必要とされ、そこにやりがいを感じています。



## 公開講座

### 一般の方々からいただく新鮮な意見も研究に活かしていきたい

英文学科公開講座に講師でお越しいただいた平野啓一郎氏も、現代のアイデンティティに強い関心をお持ちの方でした。講演いただいた「個人を一人の人間と捉える社会で、分人として生きる考え方」の内容はもちろん、講演以外の時間でもお互いの仕事に刺激を受け、貴重な議論ができました。また、一般の方々からいただいた質問やコメントは普段いただくアカデミックなフィードバックとはまた違ったものであり、大変有意義なものでした。そして、一般の方々に興味深いと思われる他の研究の道筋についても検討するきっかけとなりました。



## 研究概要

### 関係、環境、他者……さまざまな「居場所」

私はこれまで、人にとっての心理的な居場所とはどのようなものであり、どんなときに居場所がある、または、ないと感じるのかについて研究してきました。日常でも耳にする「居場所」という言葉ですが、深く考えてみると、そこには自己と他者、環境との関係が含まれており、心の健康とも関連します。所属する集団ごとに自分のあり方や居心地が異なることを不思議に思ったことがきっかけで、この研究に取り組むようになりました。ひきこもりの状態の方の支援にはさまざまなものがありますが、居場所による支援もその一つです。



## 公開講座

### ひきこもり支援とはなにか「居場所」のあるべき姿

公開講座でもこの「居場所」について、ひきこもりの方の支援にフォーカスして講演しました。居場所は「安心して自分らしくいられる場や関係性」と定義されることが多く、ここでは、動けない自分も否定されず受け止められる保障が大切です。またそのためにも、当事者に関わる家族が安心できることの重要性や、居場所は変わらないものではなく、自室から家族、家族以外の集団へと少しずつ広がることについてもお話ししました。

一緒に講座を担当された光永智香氏は、当事者への理解や家族の支援について、河瀬雅紀名誉教授は、最適な支援やそのゴールについてご講演されました。お二方の講演内容からも、今後の研究への刺激と示唆をいただきました。



「居場所」によるひきこもり支援 — 心理学科公開講座より

### 研究のこれからの展望を教えてください

A 近い将来ではイギリスとオーストラリアの日系文学を、中長期的にはブラジルの日系人など非英語圏の日系文学や、世界各地のアジア系ディアスポラ文学についても研究したいと考えています。

### 本学学生へのメッセージをお願いします

A 2023年度のカリキュラム再編成により、ディアスポラ文学に興味を持つ多くの学科生が私の講義を受講することが可能となります。日本の外側から日本について学ぶことは、私たち自身をより深く理解することに繋がるでしょう。

### 研究について、これからの展望を教えてください

A 人が、「居場所がある」と感じられるようになるプロセスを明らかにしたいと考えています。また、ひきこもりの方の居場所についてさらに考えを深め、実際の臨床に役立てたいです。

### 本学学生へのメッセージをお願いします

A 疑問や興味を感じたことに、自ら答えを出せることが研究の醍醐味です。そして、その答えはまだ世界のどこにもないのかもしれませんが、自分の中の問いを大切に、本学での学問に取り組んでください。

公開講座の詳細は P.13-14 の Events Diary をご覧ください。



# 先生たちに聞いてみた

本学の先生たちに、研究について聞いてみました！今号はご自身の研究がメディアに掲載されたお二人に答えていただきました。

Aoki Kanako



青木 加奈子  
准教授  
生活環境学科

奈良女子大学大学院人間文化研究科博士後期課程修了(学術博士)。専門は家族関係、ジェンダー論。研究テーマはデンマークの家族関係。近著は『ケアと家族愛を問うー日本・中国・デンマークの国際比較』(2022年、共著)。

## 先生の研究分野は？

デンマークの家族について研究をしています。デンマークでは、家に世話が  
必要な子どもがいても、性別を問わず仕事を続けることが当たり前  
の社会です。家族や仕事に対する考え、パートナーとどのように協力を  
していくのか、聞き取り調査等をしながら明らかにしています。

## どうしてその研究に興味を持ったの？

大学の授業で、北欧の女性が楽しみながら仕事と家庭の両立を  
していると知り、なぜ北欧では可能なのか、日本との違いを知りた  
かったからです。

## どんな活動・研究をしているの？

「二人稼ぎ手、二人ケアラー」の社会で、誰がどのように子育てに  
関わっているのかを聞き取り調査や質問紙調査から研究しています。

### メディア掲載情報

日本経済新聞が「人口と世界」と題し、人口を切り口に諸外国の取  
組みを特集。その中の「多様な家族認めるデンマーク 子への義務、  
制度で厳格に」という記事で、デンマークの家族政策について  
解説しています。 ※閲覧には会員登録が必要となります。



Ishii Hiroko



石井 浩子  
教授  
こども教育学科

聖和大学大学院 博士前期課程 教育学研究科幼児教育学専攻、修士(教育学)博士後期課程教育学研究科幼児教育学専攻 満期退学。専門は保育学・幼児教育学。近著に『子どもの生活リズムの課題と対策』『キリスト教保育9月号』第641号 キリスト教保育連盟 pp.6-13 (2022年)。

## 先生の研究分野は？

子どもの心と体の成長や健康について研究しています。その中でも、主に乳  
幼児の生活習慣調査や体力・運動能力の測定などから、子どもたちの生活  
状況の実態把握や分析によって、健康管理上の問題点や課題を取り上げ、  
生活リズムの向上のための改善策を検討しています。

## どうしてその研究に興味を持ったの？

外あそび時間の減少により、子どもたちの生活リズムや自律神経機能が乱れて  
いる現状を見て、環境を整備することが重要と考えたからです。

## どんな活動・研究をしているの？

外あそびの重要性について、調査、啓発を進めています。身近に外あそびを行  
える環境を整備するよう、国や地方自治体へ働きかけています。

### メディア掲載情報

少子化担当大臣へ子どもたちの要望を申し入れました。  
私が所属している外あそび推進の会は、外あそびの環境整備に  
向け議論し、要望書にまとめました。そして、当事者である子ども  
たちが「子ども作戦会議」で話し合った内容をまとめた意見書と  
ともに、小倉少子化担当大臣に提出しました。



NHK京都放送局「ニュース630京いちにち」に出演し、外で子  
どもが身体を使って遊ぶことの影響について、実際の遊び方と合  
わせて解説しました。 ※2023年1月19日放映「子どもの遊び場を」をご覧ください。



# N Dの本

本学教員が発刊に関わった書籍、執筆した論文等を紹介します。

## 教職を学ぶ人の 新・教育心理学

編者：渡部 雅之  
出版社：教育情報出版  
発行：2022年12月1日



## 幼稚園や小中高等学校教員の教職課程コアカリキュラム対応

本書は幼稚園や小中高等学校の教員をめざす人の教職課程用テキスト  
として執筆されました。教育心理学の基本的な理論や知見を教育の  
現場でどのように活用できるのかを、実践的にわかりやすく解説して  
います。松島教授が8章、11章を、神月教授が9章、12章を担当しています。



松島 るみ 教授  
心理学科



神月 紀輔 教授  
こども教育学科

本書では、各章に本文の内容を具体的なイメージを伴って理解するのに役立つ体験  
的活動や演習問題が豊富に取り入れられて  
います。子どもの発達や学習をより深く  
理解してもらうために、どのような事前学習  
や体験的活動を取り入れると良いのかを  
考えながら執筆しました。

## よくわかる STEAM教育の基礎と事例

著者：藤岡 達也・胸組 虎胤・熊野 善介・大辻 永・佐藤  
真太郎・川真田 早苗・堀道雄・秀熊 宏弥・中村 友香  
出版社：講談社  
発行：2022年12月13日



## 「明日からSTEAM教育に挑戦したい」と思わせてくれる一冊

なぜ今STEAM教育が注目されているのか、STEAM教育とは何か  
といった基礎的な内容から、学校教育現場において、どのように  
STEAM教育を実践していけばよいのか、具体的な実践事例を通し  
て理解することができる内容となっています。



佐藤 真太郎  
講師  
こども教育学科

本書において私が執筆した内容は、2022  
年3月31日に日本理科教育学会学会誌に  
掲載された論文について、その後の検討を  
行ったものです。防災教育とSTEAM教育  
を結び付けた教育実践は、国内では未だ  
報告数は多くありません。今後の研究が期  
待される内容です。

## NDの論文情報

Lyle De Souza 講師 英語英文学科  
“Japanese Popular Fiction: Constraint, Violence and  
Freedom in Kirino Natsuo's Out.”  
*Handbook of Japanese Media and Popular Culture in Transition.*  
Amsterdam University Press, 2022. pp.155-170

鷺見 朗子 教授 国際日本文化学科  
“Different Methods and Approaches for Teaching Arabic  
Grammar.”  
Akiko Sumi and Masato Tominaga. In Eds. Kassem M. Wahba,  
Zeinab A. Taha, and Manuela E. B. Giolfo, 2023. *Teaching and  
Learning Arabic Grammar: Theory, Practice, and Research.* New  
York and London: Routledge Taylor & Francis Group: pp.190-210

竹原 広実 教授 生活環境学科  
「居住継続意向と住民の任意な外出活動に関する研究ー京都市A学  
区を対象としてー」  
著者：竹原 広実  
2023年1月 『日本家政学会誌』Vol.74 No.1 pp.16-26

藤原 智子 教授 生活環境学科  
“Comprehensive analysis of female reproductive  
dysfunction induced by clock genes due to asynchronous  
feeding rhythm”  
*Impact*, Vol.2022, No.5, 2022年10月 Science Impact Ltd pp.28-30  
(※Science Impact社のインタビューに応えた記事)

佐藤 睦子 准教授 心理学科  
事例論文「精神科デイケアにおけるコラージュグループの分析」  
著者：佐藤 睦子  
2022年11月 「コラージュ療法学研究 第13巻」

古庵 晶子 准教授 こども教育学科  
「高齢ピアノ学習者における演奏のつまずきと視線の関係ー演奏動  
画の分析よりー」  
著者：古庵 晶子・竹川 佳成・能登 楓・三上 香子  
2023年2月 『関西楽理研究』vol.39 関西楽理研究会

園田 雪恵 准教授 こども教育学科  
「パソコンを活用した保育実習記録作成について」  
著者：林 幹士・園田 雪恵・中重 直俊  
2023年2月28日 姫路日ノ本短期大学紀要

佐藤 真太郎 講師 こども教育学科  
「自然災害に関する学習におけるジオパーク活用の意義と課題ー持  
続可能な社会の担い手をつくる地学教育への期待ー(地学教育)」  
著者：佐藤 真太郎・藤岡 達也  
2022年10月 『地学教育』75(1) 日本地学教育学会 pp.3-15



# NDの日常に密着 Events Diary

2022年10月～12月に実施した、学内の活動の一部をご紹介します。

## A 英語英文学科公開講座 「複数の自分を生きる」

2022.10.1

小説家の平野啓一郎氏をお迎えし、英語英文学科の公開講座を開催しました。「複数の自分を生きる」をテーマに、「個人を一人の人間と捉える社会で、分人として生きる考え方」について、講演が行われました。



» P.9 もあわせてご覧ください

## D 心理学科公開講座 「ひきこもりとその支援 ーいまを生きることー」

2022.11.6

心理学科主催で「ひきこもりとその支援」について公開講座を実施しました。本学の中藤講師をはじめ、堺市ユースサポートセンターの光永氏、醍醐病院の河瀬名誉教授の3名から、心理学視点での支援とゴールについて講演いただきました。



» P.10 もあわせてご覧ください

## E 物故者追悼ミサが執り行われました。

2022.11.15

本学において、カトリック聖ヴィアートル修道会ウィリアム・セルジュ神父様司式のもと、物故者追悼ミサが執り行われました。本学教職員及び卒業生の魂が、神のみもとに返り、永遠に安らかに憩うよう祈りを捧げました。



10  
Oct

A

B

C

11  
Nov

D

E

12  
Dec

F

G

## B 第12回英語スピーチコンテスト

2022.10.16



第12回英語スピーチコンテストをオンラインで開催しました。一次選考に応募があった62名のうち、入賞12名のスピーチが披露されました。大阪女学院高等学校の生徒が最優秀賞を受賞。ノートルダム女学院中学高等学校の生徒も2名入賞しました。

第12回 京都ノートルダム女子大学 英語スピーチコンテスト

結果  
最優秀賞……1名 審査員特別賞……1名  
優秀賞……1名 入賞……9名

## C 第61回 ND祭

2022.10.29-30



過去3年にわたる新型コロナウイルス感染症の流行によって開催形態の変更を余儀なくされてきたND祭が、3年ぶりに一般参加者を受け入れ、通常開催されました。「ー新紀元」というテーマで開催したND祭は約2800名の過去最高の入場者数を記録。お笑いライブやトークショーも華々しく開催され、多くの方に楽しんでもらうことができました。

» P.15 もあわせてご覧ください

## G 外国人留学生研究発表会

2022.12.21



本学の外国人留学生が日本社会や文化について、調査・研究を行った結果を日本語で発表しました。日本語の学習過程に関する発表や、スマートフォンの利用方法、断食に関する意識調査など、外国人留学生だからこそその気付きと学びを発表しました。





## 第61回ND祭『一新紀元』を終えて (ND祭実行委員長 英語英文学科 3年次生 H.A.)



今年度のND祭は一般の方にも参加いただき、模擬店も実施するかつての全NDフェスを復活させ、withコロナ時代の新たなND祭として3年ぶりに開催いたしました。当日は、好天に恵まれ、過去最高の約2800名もの参加があり大変盛況の内に終わることができました。1日目は、2019年のM-1グランプリ優勝のミルクボーイさんとセルライトスパさんの2組による吉本お笑いライブとピンゴ大会、J-popアイドルによるアイドルライブが中庭にて開催され、大いに盛り上がりました。2日目は、ドラマ「ドラゴン桜」「家庭教師のトラコ」など数々のドラマや映画で活躍されている俳優の細田佳央

太さんによるトークショーを開催致しました。また両日を通してクラブ発表や多くの団体による模擬店や展示、発表も行われ、コロナ禍で溜まったストレスを発散するのよう楽しんで笑顔を見ることができ、開催できて本当によかったと実感しています。何より私たち実行委員のND祭を開催したいとの思いが実現できたのも、学長先生をはじめ多くの先生方のご協力あつてのことと心より感謝いたします。2023年度も、さらに皆さんに楽しんでいただけるイベントを企画できるように取組んで参りますので、今後ともご支援をよろしく願いたします。



## 本学と福岡県が就職支援協定を締結

本学と福岡県は、2022年9月30日に就職支援協定を締結しました。本学学生に対する福岡県内の企業情報、各種イベント案内等の情報提供を行い、福岡県へのUIターン就職促進に取り組みます。2022年5月時点で8名在学している福岡県出身の本学学生の就職の支援につながると共に、福岡県をはじめとした九州全体の活性化にも貢献できるものと期待しています。



## AI・データサイエンスに関する授業を実施【高校生対象】

1月20日(金)、ノートルダム女学院高等学校との連携授業で、これからの社会に必要なAI・データサイエンスに関する授業「身近なデータで機械学習～AIは笑顔やチョコの形の判定ができるのか?～」を実施しました。この授業は、本学も参加する「数理・データサイエンス・AI教育強化コンソーシアム」にも公開しました。



## 学生がゴミの分別チラシを改善・翻訳

京都市環境局左京エコまちステーションより、『ゴミの分別に関するチラシ』の内容改善、留学生向け翻訳の依頼を受け、若者に解りやすいチラシの内容を検討しました。英語版・中国語版・韓国語版・ベトナム語版への翻訳を行いました。



## 「京都北山マールブランシュ」との連携授業で最終報告会を実施

洋菓子店「京都北山マールブランシュ」との連携授業『社会・ビジネス心理フィールド研修』の最終報告会を2月16日(金)に開催しました。「新型栄養失調」を解決する商品アイデアと、「京大病院と一緒に考えた新スイーツセンセ」のPR方法を提案し、講評をいただきました。



» P.8 も合わせてご覧ください



## 本学学生の卒業研究が京都新聞に掲載

1月30日(月)の京都新聞夕刊1面に、心理学科4年K.N.さんの卒業研究が取り上げられました。学内生117名への調査結果から、半数が「新型コロナウイルスの収束後もマスク着用を続けたい」と考えていることが分かりました。



## カトリック女子大学総合スポーツ競技大会で総合優勝



12月10日(土)～11日(日)の2日間、第20回カトリック女子大学総合スポーツ競技大会が開催され、本学を含む5つのカトリック女子大学が競い合い、スポーツを通して交流を深めました。バドミントン、バレーボール、硬式テニス、バスケットボールの4競技において熱戦を繰り広げ、バドミントンの優勝などすべての種目で3位以内に入り、総合優勝をおさめました。



## キャリア形成ゼミ 2022年度成果発表会を開催



2022年度のキャリア形成ゼミは7つの講座を開講し、約45名の学生がそれぞれのゼミで実践的な活動に取り組みました。学びの成果を発表する場として、企業の採用担当者や他大学教職員12名にご参加いただき、1月18日(水)に「成果発表会」を実施しました。各ゼミそれぞれ創意工夫を凝らした発表を行い、『ワークショップデザインゼミ』が最優秀賞を受賞しました。



## ゲーム FrieND 活動中！交通安全啓発活動を行いました

11月22日(火)に本学の交通安全ボランティアチーム「ゲームFrieND」が下鴨警察署と共同で本学学生に向けて交通安全啓発活動を実施しました。交通安全のチラシや啓発グッズを配り、自転車利用時の交通安全を呼びかけました。



## 支援物資配布イベントを実施

12月22日(木)に本学学生課にて、支援物資配布イベントを実施。物価高の影響により厳しい生活を余儀なくされている学生を支援するために、レトルト食品やお菓子、栄養補助食品などを配布しました。



## クリスマスマーケットで室内管弦楽部が演奏

12月17日(土)に北山ふれあいセンターで行われたクリスマスマーケットで本学の室内管弦楽部が演奏しました。お年寄りの方から小さなお子さままで多くの方が集まり、地域の方々と交流する心温まるイベントになりました。





01 コミュニケーションワードを新たに制定

企画広報課

本学の建学の精神である「徳と知」を根拠とした教育姿勢に基づき、コミュニケーションワード「わたしらしく、誇らしく Be Notre Dame, Be Myself」を新たに作成しました。聖母マリア (Notre Dame) にならい、知識と教養を持って自分らしい輝きを見つけ、これからの社会をしなやかに生きる女性を育成します。こちらのコミュニケーションワードを使って、公式サイトと入試情報サイトもリニューアルしています。ぜひご覧ください。



02 イマージョンスペースイベント参加者募集中!

国際教育課

ユーヅニア館2階のイマージョンスペースでは、昼休みや放課後に語学や国際交流に関するイベントを定期的に行っています。



イマージョンスペース公式Instagram  
https://www.instagram.com/knduimmersionsspace/



- 英語英文学科教員による英語でのレクリエーション
- 外国人留学生の交流会“SAWAKAI”(日本人学生も参加可)
- TOEICスコアアップに向けた勉強会

その他、新たなイベントを計画中です。Instagramや学内掲示にてお知らせしますので、ぜひお気軽にお越しください!

03 キャリアセンターがリニューアル!

キャリアセンター

キャリアセンターにより多くの学生に足を運んでもらうため、2月にキャリアセンターがリニューアルしました。生活環境学科「インテリア装備学」を学ぶ学生の協力を得て、カフェのような明るく開放的な空間に生まれ変わっています。履歴書やESの添削やアドバイスは随時受け付けています。お気軽に足を運んでください!



04 学習アドバイジング・教職課程支援のご案内

ND教育センター事務局

ND教育センターでは、文章作成の基礎などの学習アドバイジング、教職課程履修者への支援を行っています。

■ 文章作成アドバイジング

- 学習相談** 文章作成の基礎に関する相談を、ND教育センター事務局で受け付けています。
- オンライン講座** manabaで「文章作成の基礎づくり」を行っています。センターが提供する文章作成に関する課題に取り組むことにより、苦手意識を克服し、段階的に文章作成の基礎を身に付けていきます。
- 文章作成の基礎づくり**

■ 教職課程支援

教職課程に関する相談や、教員採用試験に関するガイダンス・説明会や対策講座、教職大学院や教師塾などの案内を行っています。



05 2023年度の図書館に関するお知らせ

図書館事務局

■ ラーニング・サポートデスクのオンライン相談

昨年度末より、オンライン窓口を設けました。予約のみでの利用となりますが、どうぞご活用ください。2023年度の開室予定は、4月以降決まり次第発表します。HP・Twitter・掲示などにご注目ください!  
(サポーター(大学院生)のご協力をお願いします)

■ 2023年度の開館について

日頃より多くのご利用いただきありがとうございます。新年度の開館時間について、変更を予定しています。7月までは授業開講日:8時45分~19時、土曜日:9時~12時・13時~16時というスケジュールで開館します(詳しくはHPのカレンダーや掲示などをご確認ください)。7月以降のスケジュールについては、7月までの利用状況を参考に改めて検討します。どうぞ、変わらぬご利用をお待ちしています。

スケジュール

SCHEDULE



本学のイベントは公式サイト上でもご確認ください。



- 在 在学生
- 卒 卒業生
- 教 教職員
- 保 保証人(保護者)
- 一 一般

2023年3月11日(土)

在 教 保

卒業式

時間/10:30~  
場所/ユニソン会館大ホール  
お問い合わせ/総務課  
TEL.075-706-3700



2023年4月3日(月)

在 教 保

入学式

時間/10:00~  
場所/ユニソン会館大ホール  
お問い合わせ/総務課  
TEL.075-706-3700



2023年5月27日(土)

在 卒 教 保 一

公開講座 「私立女子大が取り組む教員養成とその成果 — 教員不足の今を考える —」

時間/14:00~16:00(開場13:30)  
場所/ユーヅニア館NDホール  
企画/こども教育学科  
登壇予定者/こども教育学科  
神月 紀輔 教授、本学卒業生ほか  
お問い合わせ/研究・情報推進課  
TEL.075-706-3789  
※参加申込方法等の詳細は公式サイトにて公開予定です



2023年6月11日(日)

教 保

ND育友会総会

時間/13:00~  
場所/本学キャンパス内  
お問い合わせ/ND育友会事務局  
ikuyukai@ml.notredame.ac.jp  
TEL.075-706-3700  
※保護者会は2023年4月より「ND育友会」に名称変更します

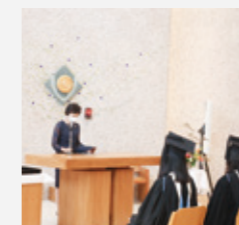


2023年9月22日(金)

在 教 保

前期卒業式・学位授与式

時間/10:00~  
場所/ユーヅニア館聖堂  
お問い合わせ/総務課  
TEL.075-706-3700



その他のスケジュール

- 4/10: 前期授業開始日
- 8/9-18: 事務取扱休止
- 7/31: 前期授業最終日
- 9/25: 後期授業開始日
- 8/1-8: 定期試験期間

編集後記

▶『NDキャンパス通信』リニューアル第一号(Vol.18)が無事完成しました。これまでも時代に合わせて何度か装いを改めてきましたが、今回は本学の取組みや学生の活躍・教員の教育研究活動をしっかりお伝えしつつ、その上読んで楽しい誌面になったのではないかと自負しています。それもこれも教職員の皆さまから、たくさんの情報やアイデアをいただいたおかげです。本当にありがとうございました。今号より同窓生の皆さまにもお届けできる運びとなりました。京都ノートルダム女子大学のいま、学生や教職員の日々の活動を年に一度、楽しみにしていただければ望外の喜びです。(椀)

▶本学の母体・ノートルダム教育修道女会がドイツで生まれて実は今年で190年だということをご存じでしたか。創立者マザー・テレジア・ゲルハルディンガー(「テレジア館」の由来です)は当時30歳代半ばで、ナポレオン戦争などによって荒廃した社会を教育の力で変えたいと考え、行動したのです。今の時代にも脈々と通じる精神を大事にして2033年の200周年を迎えたいと願います。(ま)

編集担当: 戦略企画室 企画広報課

京都ノートルダム女子大学 大学報 2023年3月10日

NDキャンパス通信 Vol.18

編集・発行/ 京都ノートルダム女子大学 企画広報課  
〒606-0847 京都市左京区下鴨南野々神町1番地  
URL: https://www.notredame.ac.jp  
E-mail: kikaku-koho@ml.notredame.ac.jp  
制作/ 株式会社WAVE

本誌は京都ノートルダム女子大学保護者会の資金援助を一部受けています。  
※掲載している情報は制作時点(2023年2月下旬)のものであります。



## 京都ノートルダム女子大学への

# 寄付のお願い

聖母マリアを校名にいただく京都ノートルダム女子大学は、建学以来、多くの皆さまからのご支援により支えられ、「徳と知」を兼ね備えた女性の育成を行って参りました。しかし、大学を取り巻く環境は年々厳しくなっており、優れた教育を学生へ提供し続けるために、教育活動や奨学金の強化等が不可欠となっています。

本学は2021年に創立60周年を迎えることができました。日頃より京都ノートルダム女子大学を応援していただいている皆さまに、教育充実を目的とした募金のご支援を賜り、皆さまとともに京都ノートルダム女子大学のさらなる発展をめざして進んで参りたいと思っております。何卒ご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

京都ノートルダム女子大学  
学長 中村 久美

### ■ お申込み方法

#### I: 銀行振込によるご寄付

銀行・郵便局からご寄付いただけます。



<https://www.notredame.ac.jp/donation/furikomi/>

#### II: インターネット募金

クレジットカード、インターネットバンキング(Payeasy(ペイジー))、コンビニ支払のいずれか便利な方法を選択してご寄付いただけます。



<http://hojin.notredame.ac.jp/donation/>

#### III: 古本募金

皆様から読み終えた本・DVD等をご提供いただき、その査定換金額をご寄付いただく取組みです。



<https://www.notredame.ac.jp/donation/furuhonbokin/>

#### IV: ふるさと納税寄付金を活用した地域連携活動支援

寄付金については、京都ノートルダム女子大学及び京都市で取組む、大学・学生と地域の連携促進事業等に活用されます。



<https://www.notredame.ac.jp/donation/furusato/>

### Present

I: 銀行振込によるご寄付、II: インターネット募金による寄付を5000円以上頂いた方には、以下のうちご希望の品をお送りいたします。

A: ND祭(秋開催)で使用出来るチケット

B: 京都ノートルダム女子大学オリジナルグッズ、NDクリスマスカード送付(12月)

※領収書を送付する際に、返信用書類(メールもしくはFAX)を同封いたしますので、そちらでご希望の品物(AまたはB)をお選びください。

寄付金に関する  
お問い合わせ

京都ノートルダム女子大学 管理運営部 財務課  
e-mail: [accounting@ml.notredame.ac.jp](mailto:accounting@ml.notredame.ac.jp) TEL.075-706-3703 FAX.075-706-3707